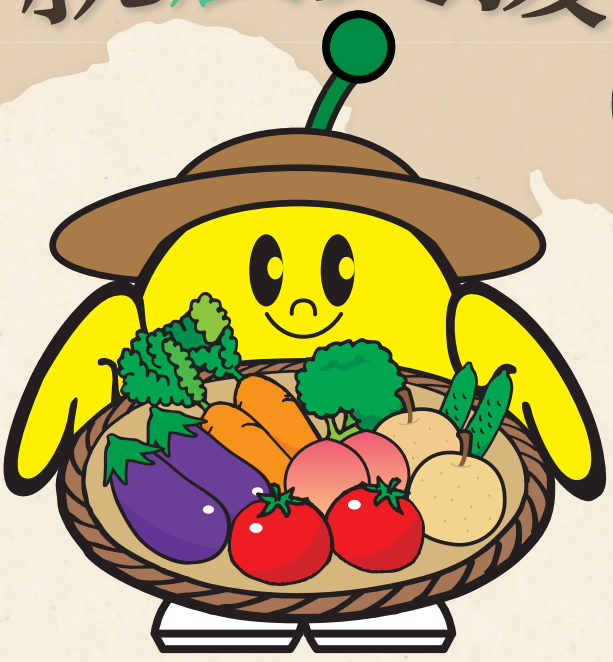
Future From Fukushima.
ふくしまから はじめよう。

特集

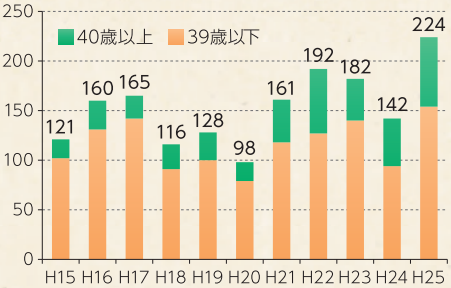
はじまっています！ ふくしまの就農支援

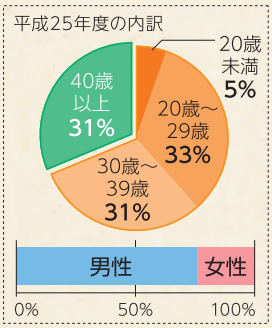


県では、県復興計画（第2次）の13の重点プロジェクトの一つに「農林水産業再生プロジェクト」を掲げています。今回は、「福島で農業を」という強い意志を持ち、営農をはじめた農家の皆さんの様子、「これから農業に就きたい」と考える皆さんを支援するための取り組みをご紹介します。

新規就農者の推移

福島県の新規就農者数は震災後いったん減少しましたが、再び増加し、平成25年度は過去最多となりました。





出所：
福島県 農業担い手課調査
（平成25年5月1日現在）

20代から30代の若い世代が約7割。震災後は、40歳以上のチャレンジも増えているんだ。

知事メッセージ

新たな担い手は「福島の希望」

福島県知事 佐藤雄平

福島の豊かな大地が育んだ良質な米、旬のおいしさあふれるみずみずしい野菜や果物は、本県が誇るすばらしい宝であり、それを支えているのは、ひたむきに農業に取り組む農家の皆さんです。

福島県産の農産物に対する風評がいまだ残る中、昨年は過去最多となる224人の方が県内で新たに農業を始めました。本県農業の可能性を信じて決意された新規就農者の皆さんは、農業・農村復興の大きな力となるものであり、こうした皆さんが更に増えていくことを期待しております。

農家の皆さんが夢と希望を持って農業に取り組み、豊かな「食」と「ふるさと」を次の世代にしっかりと引き継いでいけるよう、引き続き農業の振興に力を尽くしてまいります。

読者からのお便り
震災から3年経ったのに、なかなか前を向くことができずにいたのですが、記事の一つ一つがとても前向きで、こんなにも新しいふくしまのために動き始めているんだなあと、明るい気持ちになりました。（いわき市 40代 女性）

生まれ育った相馬で農業を

相馬市

菊池 将兵さん

27歳。震災の年に就農。夏はブロッコリー、キャベツを中心に栽培。奥様とは研修先で知り合い、昨年お子さんが誕生しました。

「食」を守る農家の格好良さ

東京で21歳の時にホームレス支援ボランティアを1年間経験しました。ある時、東北各地から農家さんが「炊き出しに使ってくれ」と、野菜や米を持ってきたんです。その姿がとても格好良く見えました。「自分も『食』を支える人間になりたい」と思ったきっかけですね。

研修先の誘いを断り福島で就農

22歳から3年間、全国を渡り歩いて住み込みで農業を学びました。研修先で「今、福島でやる必要はない。ここで独立したら?」とよく言われました。でも、どうしても相馬に戻ってきたかった。もちろん機械は持っておらず、国の農業機械購入の補助や、県の青年就農給付金は本当に助かりました。

苦しいときに助けてくれる地域の皆さんに感謝

祖母から借りた、山の中の使っていない畑1枚からスタートしました。朝から晩まで畑にいる自分を見た周りの農家さんから、「よくやってるな、そんなら俺の畑貸そうか」と声がかかるようになって、自分の畑が増えていきました。

今では、私が研修生を受け入れるまでになりました。彼らには農作業だけでなく、「人付き合い」の重要さを教えています。ゴミ拾い、スポーツ大会や花見など、地域の行事に参加する。農作業は一人では大変ですが、苦しいときに助けてくれるのは、周りの皆さんなんです。

有機大豆で味噌を加工・販売にも取り組みたい

以前からチャレンジしたかった有機JASを今年、申請できるように準備してきました。少しずつ有機栽培に転換して、10年後には全転換したいです。将来は有機大豆で味噌を作り、加工所も建てて、販売までしてみたいですね。法人化も視野に入れています。

神奈川、愛知、福岡からやってきた研修生へブロッコリーの収穫作業実習中。「ネットで研修生募集ができるのは本当に良い時代になったと思います。福島に来てくれるきっかけを作るため、これからも受け入れを続けます」

資金の不安を解消

就農前後の資金をバックアップ『青年就農給付金』制度

受け入れ先農家での就農前研修中や、経営が不安定な就農初期段階に、一人当たり年間150万円を給付します。

対象者	就農前の研修をする方	就農初期段階の方
給付期間	2年以内	5年以内
給付金額(一人当たり)	150万円／年	150万円／年 夫婦は一組当たり225万円／年
申し込み・問い合わせ先	青年農業者等育成センター(公益財団法人福島県農業振興公社)	各市町村の農政担当窓口

※給付開始には必要条件がありますので、詳しくは表中の問い合わせ先へご確認ください。

就農を力強くサポートする支援制度

農業を仕事にしたいと考える皆さんへの教育・相談、就農後の経営・技術など、あらゆる面から支援します。

問各方部の農林事務所
または県庁農業担い手課
☎024(521)7340

福島県 農業担い手課 検索

読者からのお便り

地元の野菜や観光地の魅力を、震災前とは違った良さでPRできれば、今まで以上に福島県の良さや魅力が県の内外に伝わり、復興につながっていくのではと記事を読んで思いました。(二本松市 20代 女性)

この日は、県南農林事務所の県職員が訪れ、枝のせん定と摘果の方法を実習。職員を「先生」と呼び、熱心に質問する宋さん。

体力があるうちに就農を

「50歳で、農業をする」と決めた理由は、体力ですね。「仕事」にして食べていくことを考えると、それこそ無理をして体を壊したらおしまい。第二の人生として農業を選ぶなら、引退を早めたほうがいいと思いますよ。若ければ若いほどいい（笑）。

面倒見の良い地域の皆さんに囲まれて

日本、韓国も含めて、「田舎」を探していました。白河に決めた理由は、野菜でも果物でも何でもできて、東京に近いこと。

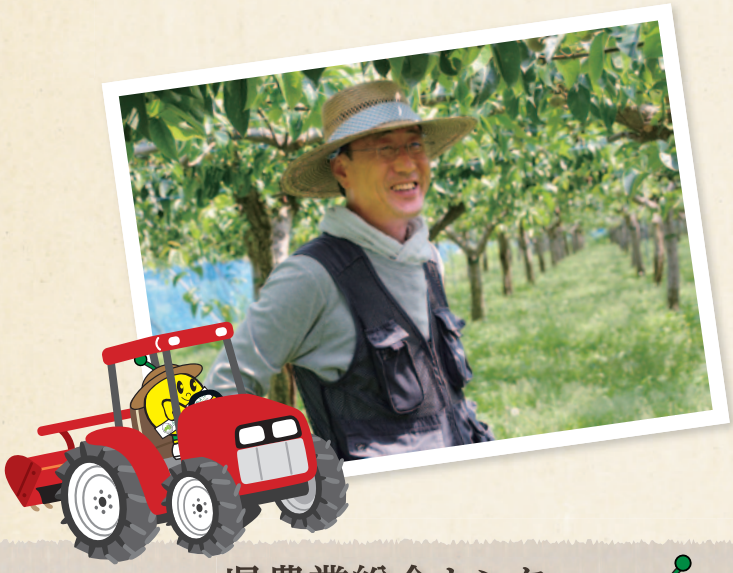
白河に来て、ある人のリンゴの収穫を自発的に手伝っていたんです。全くの素人の私に作業方法などを教えてもらう中で、「梨畑があるからやってみる？」と誘われました。最初は「こんな広大な畑、できるかな」と躊躇（ちゅうちょ）しましたが、「やりがいのある規模のほうがいい」と思い、始めました。半年間研修して、その後は整枝・せん定、摘果、収穫のことなど県の農林事務所の指導を頼りにしています。

福島の農業を海外に発信したい

機械は、前オーナーさんから譲ってもらい、農薬散布機などを国の補助を活用して買い足しました。

今年は「ジョイント栽培」を試したいです。この方法は、省力化と規模拡大が同時にできます。ただ、この栽培方法に合った苗木の確保が難しいんです。大規模栽培の全国一番手になりたいのですが……。また、昨年から法人化の準備をしていて、従業員を雇いたいと思っています。「人材集め」の支援もあるといいです。

今でも韓国の親戚から「福島、大丈夫？」と心配されます。私が生産を続けることで海外へ「福島で農業ができる」ことを発信したいですね。



「農業を仕事にする」50歳の決断

白河市〈韓国出身〉

宋（そん） 善吉（すんきる）さん

55歳。震災前年に就農。日本へ留学後、東京でシステムエンジニアとしてのキャリアを積む。1年間の「田舎探し」を経て白河へ。

一般の人も受講可能

県農業総合センター 農業短期大学校

オープンキャンパス 8月6日（水）、8月22日（金） 午前10時～午後3時30分

県内唯一の農業に関する高度な教育機関として、次代を担う意欲ある農業者を数多く輩出しています。現在、平成27年度入校生を募集しています。

また、一般の方を対象に、就農に向けた専門研修や農業機械の免許取得など、さまざまな研修を実施しています。

問県農業総合センター 農業短期大学校

福島県農業総合センター 農業短期大学校 検索

相談してみよう

県青年農業者等育成センター、各農林事務所の「新規就農相談窓口」

きめ細かなアドバイスや、農業高校生を対象とした若手農業者のもとでの実践研修、県農業会議と連携した若い就農希望者と農業法人などのマッチング支援などを行っています。農業短期大学校では、農業法人などへの就職あっせんをしています。

問県農業振興公社 青年農業者等育成センター

福島県 青年農業者等育成センター 検索

読者からのお便り 特集の「進む！拠点整備」に興味を持ちました。福島の活性化につながって欲しいと思います。（いわき市 30代 女性）